

「愛は勝つ」

校長佐藤義明

「心配ないからね 君の勇気が 誰かに届く 明日はきっとある どんなに困難でくじけそうでも 信じることさ 必ず最後に愛は勝つ」

多くのファンやミュージシャンに愛されたKANさんが、II 月に逝去されました。「愛 は勝つ」は、平成2年(1990年)に発表され大ヒットしたKANさんの代表曲です。当時 私は20代前半、薩摩川内市(旧川内市)で教員のスタートを切ったばかりでした。ストレ ートな歌詞に何だかくすぐったくもあり、自分の仕事への向き合い方の本質を突かれたよ うな痛快さを感じたのを覚えています。そこで今回は流行歌に誘われて、柄にもなく少し 「愛」などについて。

人に思いを伝え理解してもらうことは大変難しいことです。ましてやその思いや考えを 受け入れ、行動に変容が表れるには時間がかかります。以前、このような状況を「涵養」と いう言葉でお伝えしたことがあります。「水が自然にしみ込むように徐々に養い育てること (広辞苑)」です。

あいさつを例に考えてみましょう。

「あの子は、あいさつができない。」 「目を合わすこともしない。」

一刀両断することは簡単なことです。また、強い指導で強制的に行動を改めさせることは、そんなに難しいことではないかもしれません。しかし、それでは本質は変わりません。では、大人はどうあるべきか。言葉に愛を込め、行動に思いを乗せ、きっといつか届くときが来る、そんな気持で今朝も正門の前で児童一人一人とあいさつを交わしました。まだまだ、相手や状況が異なると実践できない広がりに欠ける面もあるかもしれません。あいさつの基本は家庭にありますが、学校・地域も含め、それぞれの立場から根気強く向き合うことが肝要だと思います。話は変わりますが、歌つながりで・・・・。KANさんと親交の深かったMr.Childrenの桜井和寿さんが平成20年(2008年)に発表した「横断歩道を渡る人たち」という曲に、次のようなフレーズがあります。

「イライラした母親はもの分かりの悪い息子の手を引っ張って もう何個も持ってるで しょ!?と おもちゃ屋の前で声を上げている 欲しがっているのはおもちゃじゃなく 愛情で 拒んでるのも『我慢』を教えるための愛情で 人目も気にせず泣いて怒って その親子は愛し合っているんだ」

最近、あまり見かけることがなくなりましたね。もの分かりの良い子供たちが増えたので しょうか。それとも、親御さんの関わり方が上手になったのでしょうか。もし、自分を出せ ず、思いを飲み込んでしまう子供たちになっているのだとしたら・・・・ぞっとします。

表面的な捉えで物事の本質を深く考えようとしない SNS やネットへの無責任な書込が目 立つ今の時代にこそ、聴きたい・歌いたい・叫びたい。

「心配ないからね 君の勇気が 誰かに届く 明日はきっとある どんなに困難でくじけそうでも 信じることさ 必ず最後に愛は勝つ」



皆様には、この一年大変お世話になりました。良い年をお迎えください。

